

私はどのように避難行動をすればいいの？

自宅外の避難を行う場合には

日頃しておくこと

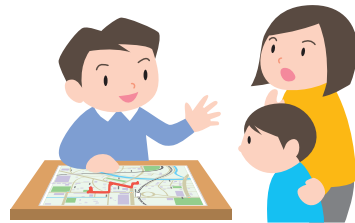
1. 自宅周辺の災害危険性を把握しておきましょう

洪水や土砂災害が起きたときに、自宅が倒壊したり、深く浸水したりする危険性がないかを把握し、自宅の外へ避難する必要があるのかを確認しておきましょう。

災害危険性の把握は **17-32** ページへ

2. 避難先・経路・方法を確認しておきましょう

安全な避難先と避難経路を、家族や地域で確認しておきましょう。また、徒歩で避難することが基本です。事情により、自家用車での避難をする場合は、早めの避難開始が重要です。



3. 非常持出品の準備をしておきましょう

非常持出品の準備は **40** ページへ

大雨が降りそうになってきたら…

4. 情報を収集して避難判断をしましょう

情報と行動の目安は **6** ページへ
11-12 ページへ



5. ご近所に声をかけましょう

単独での避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。



6. 注意して避難しましょう

動きやすい服装で、必要最小限の荷物で避難しましょう。



河川や水路などには、近づかないようにしましょう。



やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

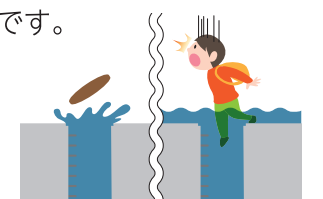
長靴はぬげる危険があります。



水の中の障害物に注意しましょう。



マンホールに気づかず吸い込まれてしまう場合があり、危険です。



お年寄りや身体の不自由な人などの手助けをしましょう。



幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。



はん濫による水は汚水が混ざっているため、むやみにさわらないようにしましょう。



車は約30cmの浸水深で走行困難になります。



人が歩ける深さの目安は男性で70cm、女性で50cmくらいです。



※水の流速によっては危険があります。

危険な場所には近寄らないようにしましょう。



7. 避難所では互いに気を遣いましょう

避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することになります。お年寄りや障がいのある方、乳幼児を抱えた方などへの気配りを心がけましょう。



●地域で協力を

普段から地域で情報を交換し、いざというときには協力し合い、災害による犠牲を防ぎましょう。